

# BABY EST NA!

その4 à l'accouchement (続き)



## c. 計画出産の話

計画出産といつても私の場合、自然出産のつもりでいたのに肝心の子供が予定日を過ぎても生まれなかつたため、結果として計画出産となつたのです。

出産前キネジストの所に数回通い、呼吸法や陣痛が起きた場合などいろいろ学んでいた私はその日を心待ちにしていたのですが、予定日になつても子供は生まれて来ません。診察を受けに行くと医者は「さて、いつ生みたいですか。あなたが日にちを決めて下さい。明日でもあさってでもいいですよ。」と言うのです。

そう言うことは当然医者が指示してくれるものと思っていた私は戸惑いましたが、逆に考えれば自分の都合のいいように、あるいは納得がいくようにできるということでもあります。促進剤を打つよりはできるだけ待ちたかったのですが、二週間待つ勇気はなかつたので一週間後に入院することに決めました。

さて、その間にも生まれる気配がなかつたためそのまま予定通り入院となり、夜8時に病院に向いました。受け付けを済ませ産科病棟へ行き、内診を受けて子宮柔軟剤を入れると後は陣痛室で待つだけ。陣痛促進剤を打つのは翌朝です。他にすることもないので廊下をうろうろしたり入浴設備（陣痛を柔らげるため）を見学したり隣にある分娩室を覗いてみたり。後は持参の音楽テープを聞いて過ごします。

柔軟剤のために陣痛が始まつかもしれないと言われていた通り、明け方陣痛で目がさめました。あつという間に5分間隔になつたため看護婦に知らせます。

早朝、予定通り促進剤を点滴で入れ始めて間もなくいつものキネジストが到着。呼吸を指示したり背中をさすったりしてくれます。出産は午後かとなぜか決め込んでいた私は、9:00には生まれるでしょうというキネの言葉で、夫は間に合うかしらと急に心配になりました。しばらくするとさらに促進させるため、人工的に破水させます進み方も早く痛みも我慢できる程だったので、麻酔（これもその場で自分が決めることがあります。）は断りそのまま待ちます。

夫が到着したのは分娩室に入る15分前。その頃が一番苦しい時なのですが、隣の分娩室へ陣痛の合間を見計らつて歩いて行くように言われます。途中で陣痛が起きるのでは、とつい早足になりました。

一方にキネが立ち、もう一方に夫が立つ中の15分もしないうちに長男が誕生。計4時間30分のスピードでした。

その間夫の出番は決して多くはないですが一緒に力を込めたり、誕生後は子供に産湯をつかわせたりと実感がわいたようです。喜びを分かち合うことができお互いとても満足しています。

